

閨風亭

渉成園の中で最も大きな客殿である「閨風亭」。印月池を臨み、京都の東山の丘陵地帯を背景にした景色を眺めることができる。閨風亭から、あるいはその前の芝生から、阿弥陀ヶ峰の影に浮かぶ池とその双子の島を眺めることは、伝統的に渉成園の最も象徴的な風景の一つとされてきた。また、建物の名前にも山の名前が使われている。「ロウフウ」とは、中国の神話に登場する神々や伝説の生き物が住む山、崑崙（こんろん）山脈の山である「Langfeng」の日本語読みである。現在、緑に覆われている阿弥陀ヶ峰はマンションの陰に隠れてしまっているが、閨風亭からの眺めは今でも人気がある。

簡素な造りの中に、いくつかの興味深い特徴がある。大広間の床は通常、畳が敷かれているが、畳を外せば能舞台になるようになっている。この部屋にはいくつかの入り口があり、そのうちの 1 つは隣接する「大玄関」と渡り廊下でつながっている。廊下は、明治天皇が 1880 年に渉成園を訪問された後に大玄関を寄贈され、1884 年に増築されたものである。ご訪問の際に天皇は、大広間の隣にある小部屋で休息された。